

1. 人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
4. 明日の彦根市を担う人を育(はく)むまちづくり
5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

住宅の耐震化をすすめましょう 特集

防ごう 災害

地震被害を防ぐために 今こそ住宅の耐震化を



▲平成 19 年に起こった能登半島地震によって、1 階部分が倒壊した住宅（石川県）

中国の四川省や、国内の東北地方を襲った地震は、皆さんの記憶にも新しいことだと思います。これらの地震では、多くの住宅が倒壊し、生命・財産が奪われました。

そこで、今回は、地震による被害から身を守るために必要な、住宅の耐震化について取り上げます。

9月1日は「防災の日」です。この日は、大正12年9月1日に起こった関東大震災の惨事を教訓に、防災への気持ちを確かめあう日です。起こりうる災害への備えとして、防災への意識を今一度確認してみましよう。

問い合わせ先 **市総務課**
30-6100番、FAX 22-1398番、**市建築指導課** 30-6125番、FAX 24-8517番

大地震は彦根でも起こる！

「震度7」への備え〜住宅耐震化〜

多発する大地震

昨年は、能登半島地震や新潟中越沖地震、今年に入ってから6月に岩手・宮城内陸地震、7月に岩手県沿岸北部の地震と、いずれも最大で震度6強という、非常に強い揺れによる地震災害が発生しました。

地震は、いつ私たちの生活を襲ってくるかもしれません。彦根市においても、例外ではありません。彦根市に被害を及ぼす地震として、琵琶湖西岸断層帯地震や東南海・南海地震があり、最大で震度6弱と予測されています。また、彦根市内には、仏生寺断層と彦根断層の2種類の活断層があります。この2つの活断層は、米原市から甲賀市の土山にかけて存在する鈴鹿西縁断層帯に属するもので、そのエネルギーは、阪神・淡路大震災をもたらした地震以上になると言われています。

ゆれやすさマップの作成

一般的に、地震が発生した際に、私たちが知る情報は震度であり、震度によって地震の大小を判断していると考えられます。そこで、彦根市では、地震ハザードマップとして、3月にゆれやすさマップを作成しました。(下図)

と想定される東南海・南海地震や琵琶湖西岸断層帯地震、鈴鹿西縁断層帯地震、彦根市直下型地震の4つの地震で予測される震度の最大値を示したマップです。

このマップから、前述の地震が起きたとき、市内のほとんどの地域で、震度6強、もしくは震度7の揺れが起きると予測されています。

住宅耐震化のすすめ

最大震度7を記録した阪神・淡路大震災では、約64万棟の住家被害があり、犠牲者6,434人の約8割以上が、住宅などの倒壊による圧死でした。また、昨年の能登半島地震では、約3万棟の住家被害があり、新潟中越沖地震でも、4万棟以上の住家被害がありました。これらの地震では、家の一階部分が倒壊して、家の中にいた人が被害を受けたほか、建築物や塀などが倒壊して、そばを歩いていた人も被害を受けました。

地震災害は、一瞬にして、財産や人の生命を奪います。大きな被害をもたらす地震から人命、財産を守るためには、住宅の耐震性を上げることが重要です。地震から、自分の命と財産を守るために、住宅の耐震化や住空間の安全性を確保しましょう。

